

# 染織ワーキング部会の検討状況

令和 6 年 3 月



# 1. 令和5年度の染織WG部会における検討状況

- 令和5年度の染織WG部会で検討してきた主な内容は、以下の通りである。

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
染織工程		事例調査による製作仕様の検討 材料調達・部分試作							仕様設定・本試作				
		文様（刺繍）下絵の検討・修正											
染織WG部会		●05/19 寺田委員個別打合せ			●08/25 染織③		●09/01 久保委員個別打合せ②	●10/24 染織④		●01/26 染織⑤			WG3回 個別打合せ3回
染織WG部会 に係る 調査・監修等		●05/31 ガラス玉事例久米島博調査		●07/27～28 刺繍事例・材料調達京都調査		●09/09 下絵製作者打合せ ●08/30～09/01 刺繍事例和泊町調査	●10/12～13 刺繍事例県博調査 ●10/16 刺繍事例・ガラス玉事例那覇市歴博調査 ●10/31～11/02 刺繍事例大和村調査			●11/17 刺繍事例名古屋市博調査		●12/09 ガラス玉事例日光東照宮調査	

開催日	会議名等	主な検討内容
05/19	寺田委員 個別打合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>垂飾文様下絵の修正方針の検討</li> <li>緞子・刺繍の製作方針の検討、根拠資料（事例調査等）の検討、製作体制等の検討</li> </ul>
06/13	久保委員等 打合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>飾玉：垂飾製作仕様の確認、ガラス玉の配色の検討、事例調査等の検討</li> <li>垂飾文様下絵：文様表現の検討</li> </ul>
08/25	第3回WG部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例調査・材料調達の検討、垂飾の製作仕様の検討、</li> <li>製作スケジュール、製作体制等の検討</li> </ul>
09/01	久保委員 個別打合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回WG決定事項の確認、第4回WG検討事項の確認</li> <li>飾玉の配色方針の検討、事例調査の検討、垂飾文様下絵及び瑞雲文の配色の検討</li> </ul>
10/24	第4回WG部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>垂飾文様下絵の修正方針の検討、事例に基づく刺繍表現及び材料の方針確認</li> <li>ガラス玉の形状・大きさの検討、配色の参考事例の検討、垂飾構造仕立ての検討</li> </ul>
01/26	第5回WG部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>緞子の色調の決定、刺繍技法の方針の決定、刺繍の製作体制の検討、下絵の検討</li> <li>ガラス玉の形状・大きさの決定、飾玉編込みの方針の確認</li> <li>平成復元時の垂飾の取付方法の確認</li> </ul>

# 2. 製作物別の進捗状況（概要）

- 染織WG部会における制作物別の進捗状況は、下表の通りである。

番号	制作物名称	国への引渡期限	新たな知見	状況
	垂飾	令和8年7月頃	・琉球古刺繍事例（鎌倉芳太郎資料含む）及びその他刺繍事例等	部分試作で確認中

### ■特記仕様

※青字:国からの仕様から追加・修正した箇所

①寸法(全体) 横 3,627mm×縦 380mm (飾玉含む) : 一具

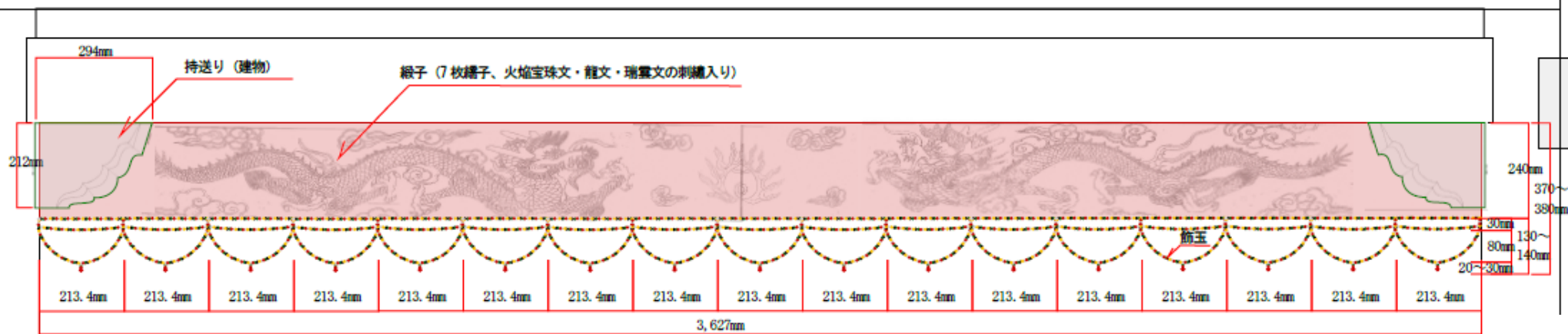
- ・布地: 横 3,760mm×縦 240mm
- ・飾玉: 横 213.4mm×縦 130~140mm (円弧1個あたり)、円弧の数17個

### ②材料・製法

- ・刺繍基布: 絹製赤色緞子(7枚縹子織/地模様無し)
- ・刺繍糸: 絹糸 (瑞雲文: 赤系・青系・黄系・白系・黒系の5色/琉球古刺繍)
- ・金糸: 4号金糸 (龍文・火焰宝珠文)
- ・飾玉: 【大玉】鉛ガラス製 (赤色/直径10mm内外/巻上技法)  
【小玉】鉛ガラス製 (赤・青(緑)・黄・白・黒の5色/直径7mm内外/巻上技法)

※2枚製作し、背中合わせにして両表面とする

### ▼垂飾正面図



## (1) 文様（刺繍）下絵の検討

### ■ 文様（刺繍）下絵の作成フロー

#### ① 前回復元時の文様下絵の確認

- ・ 前回復元時の垂飾の刺繍文様と龍文の大きさ等に違いがあることが確認された

#### ② 「寸法記」等に基づく下絵の修正

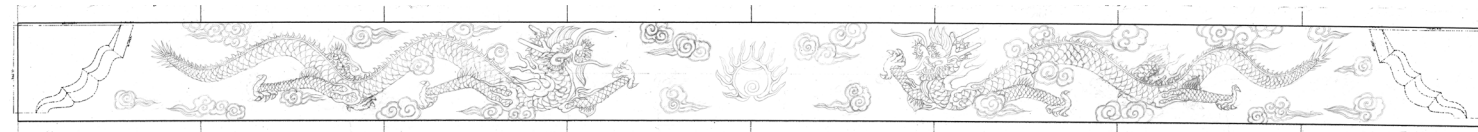
- ・ 「寸法記」の龍文の姿勢、火焰宝珠文の種類、瑞雲文の見切れの有無を再検討
- ・ 尚家資料の紅型事例にみられる鱗、腹板に基づき下絵を修正
- ・ 鎌倉芳太郎古写真の刺繍事例にみられる龍文・瑞雲文を参考に刺繍時の表現を想定

#### ③ 下絵のデジタル化

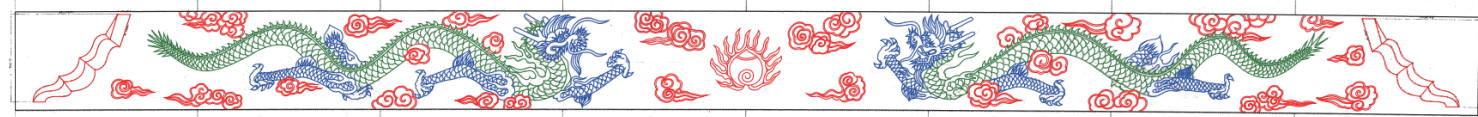
- ・ 手描き下絵をもとに刺繍作業に向けて、均一単線とするためのデジタルトレースを行った
- ・ デジタル化により、部位ごとの大きさ・配置・角度等の細かな調整を容易にする

#### ④ デジタルトレース下絵の仕上げ

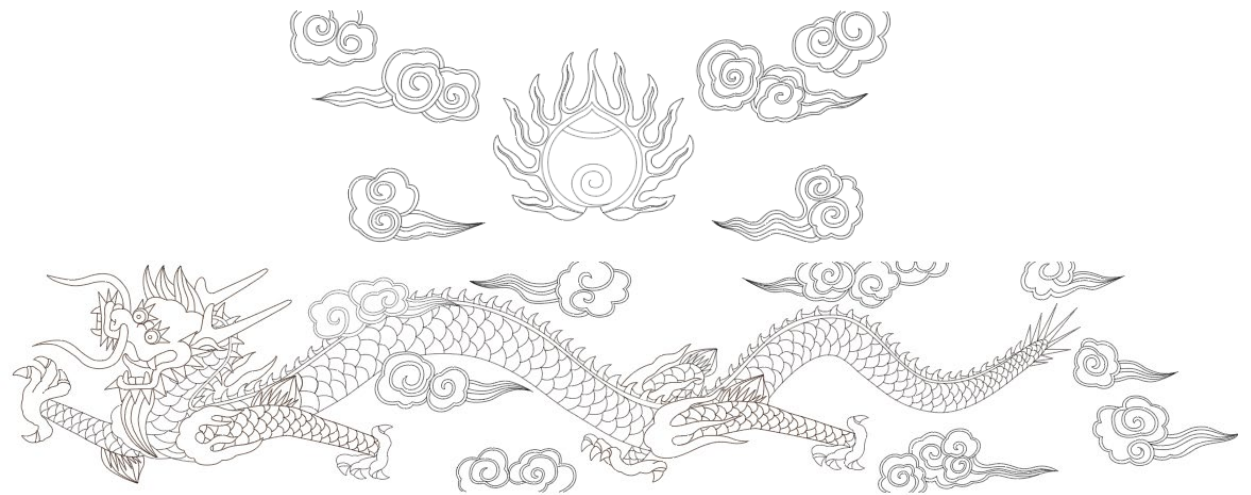
- ・ 刺繍製作者による刺繍表現面からの修正指示を踏まえて下絵を仕上げる
- ・ 下絵製作者による最終確認



下絵製作者による手描き下絵（令和5年11月時点）



デジタルトレース後の下絵（令和5年12月時点）



監修委員（刺繍製作者）指示にて修正した下絵（令和6年3月時点）※3分割



# 3. 令和5年度の垂飾（試作）の進捗状況

## (2) 刺繍基布（緞子／7枚縹子地）・刺繍系の色調について

項目	内容
布地	清代中国では7枚縹子織りが主流、往時の赤地表現と近いと考えられる「朱地縹子布」の色味と7枚縹子を採用
色調	事例「朱地縹子布」の地色に基づき色調を試作し設定
刺繍系	金系は歴史性(往時の製造技術)や耐久性を考慮し4号と設定 刺繍系は琉球国王尚家関係資料「赤地龍瑞雲嶮山文様縹珍唐衣裳」を参考に5色を設定

### 布地の種類 (7枚縹子)



「朱地縹子布」清代、長417.5×幅80.0  
(沖縄美ら島財団所蔵)

### 布地の色調 (事例に基づき色調を試作し設定)



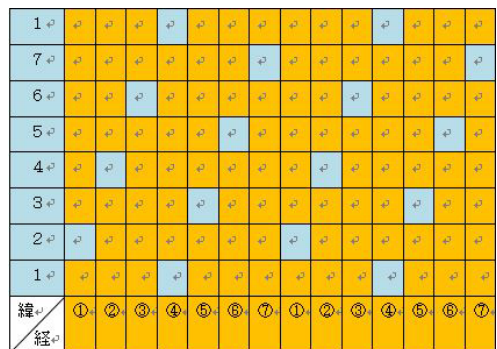
朱地縹子布(沖縄美ら島財団所蔵)

「朱地縹子布」にあてたカラーチャート3色のうち退色等を考慮して  
**試作C (DIC-C33)**  
を採用

### 金系・刺繍系 (歴史性や事例を参考に設定)

【金系】4号金系で、留め糸は赤とする。  
【刺繍系】絹糸とし、色調は以下のとおり。

- 赤筋系**  
■ C-49 (※1)
- 黄筋系**  
■ DIC-C153 (※2)
- 青筋系**  
■ DIC-C226 (※2)
- 黒筋系**  
■ L75-200 (※3)  
■ DIC-C274 ※2に少し青味が入った色
- 白筋系**  
■ DIC-C300 (※3)



7枚縹子組織

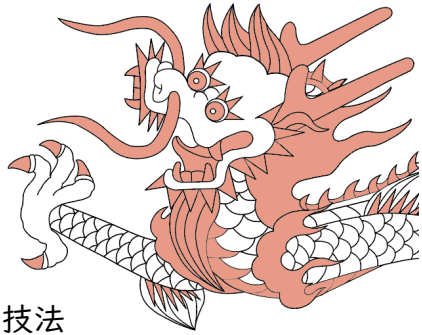


※1 DICカラーガイド中国の伝統色第1版  
※2 DICカラーガイド中国の伝統色第3版  
※3 jpma standard paint colors2021

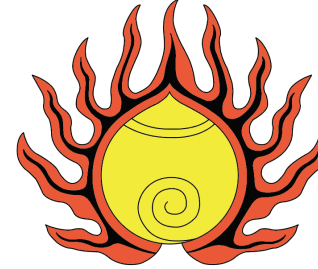
# 3. 令和5年度の垂飾（試作）の進捗状況

## (3) 刺繍の検討

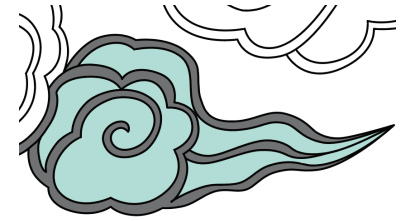
【龍文】



【火焰宝珠文】



【瑞雲文】



※技法赤字：琉球古刺繍の技法

該当箇所／技法	目、髭、牙、角、爪、たてがみ、背びれ、腹板、舌、火焰／ <b>琉球千鳥繡</b>	顔、胴部鱗内／駒繡い 胴部鱗縁取り（駒繡いA）／駒押え 輪郭縁取り／駒取り	宝珠外側、火焰外側／ぬき繡い 宝珠と火焰の模様・縁、火焰内側／駒取り 宝珠内部／駒繡い	瑞雲外側／琉球千鳥繡い+押さえ繡いor琉球千鳥繡い 瑞雲内側／ <b>本綾織り繡い</b> or <b>琉球千鳥繡い</b> 緞子への切嵌め／金糸綴じ繡い
刺繍糸	白糸、黒色系（黒目）、赤色系（舌、火焰）	金糸、綴じ糸の色味は事例を基に検討中	金糸、綴じ糸の色味は事例を基に検討中、赤色系（宝珠外側、火焰外側）	絹糸、金糸、綴じ糸の色味は事例を基に検討中
仕上がり		 本駒埋め 片駒埋め 駒取り	 ぬき繡い 駒繡い(輪埋め)	 本綾織り繡い(内側) 琉球千鳥繡い
技法根拠	「伊平屋の阿母加那志繡衣裳」(伊是名村) 「森家伝世15世紀刺繍大袖衣」(沖永良部島)	「帽額」(京都)、「龍繡胴衣」(奄美大島) 「清代・朱地龍双鳥文様・志那服」(名古屋) 「雲龍鳳凰文刺繍足袋」や「緞子地綵繡神衣裳」部分(アジアゲコムネ)	-	「仲村家伝世獅鬃(カイチ)文様刺繍裂袷欠」(本部町) 「刺繍神衣裳」(久米島町)
製作担当	熟練技術者		熟練技術者	技術継承者
方向性(案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>龍の大部分を占める金糸の駒繡いは、技術的に膨大な時間を要するため、「琉球古刺繍保存会」の製作体制では、期限までに表側と裏側の2面の刺繍を完成させることは困難であることが見えてきた。</li> <li>納期までに表側と裏側の2面を完成させるため、琉球古刺繍の特徴的な技法ではなく時間を要する金糸の駒繡いを、専門業者への外部委託を検討する。</li> <li>事例調査で得られた金糸技法を踏まえながら鱗の表現方法と綴じ糸の色を決定する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>駒繡いを施す宝珠内部は、「引き返し埋め」で設定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現時点での課題は特にないため、技術継承者へ指導しながら本製作に進める。</li> </ul>

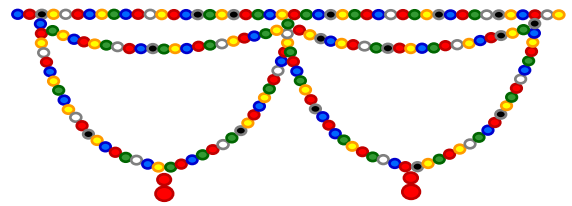


# 3. 令和5年度の垂飾（試作）の進捗状況

## (4) 飾玉の検討

項目	内容	備考
寸法	平成復元時の垂飾のガラス玉（大・小）の寸法を参考に設定	琉球のガラス玉事例の寸法・形状も確認
形状	琉球のガラス玉事例の形状を参考に設定	
色調	尚家資料「御玉貫（大）の身」の玉5色の色調を参考に設定	色調に（若干の）幅を持たせる
配色	「玉灯籠」（日光東照宮所蔵）の不規則配列を参考に設定	
材料	平成復元時の垂飾のガラス玉（大・小）の材料等を参考に設定	太玉・小玉ともガラス製（鉛ガラス）
編み方	三線男系（2号、5号）による試作編み込みにより想定（継続検討）	

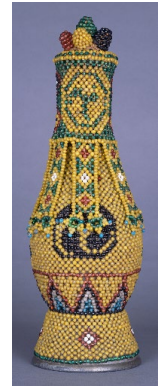
### ガラス玉配色イメージ （不規則配列）



### ガラス玉の寸法 （平成復元時を参考）

	寸法
平成復元に 近い寸法	【小玉】
	径(幅)約 7.0mm
	孔径 約 2～3mm
	【大玉】
	形(幅)約 10mm
	孔径 約 2～3mm

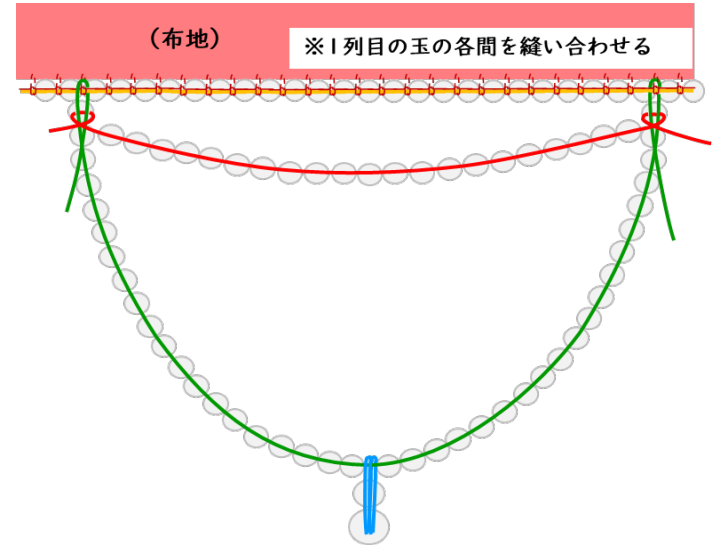
### ガラス玉の色調 （「御玉貫（大）の身」の5色）



「御玉貫（大）」  
（18世紀、那覇市  
歴史博物館）

- 黄玉  
（不透明）  
色票番号 27-85V  
マンセル値 7.5Y8.5/12  
R251/B212/G0
- 赤玉  
（不透明）  
色票番号 05-40X  
マンセル値 5R4/14  
R183/B0/G36
- 青玉  
（半透明）  
色票番号 42-40P  
マンセル値 2.5G4/8  
R0/B104/G50
- 白玉  
（不透明）  
色票番号 N-95  
マンセル値 N9.5  
R245/B247/G242
- 黒玉  
（不透明）  
色票番号 N-10  
マンセル値 N1  
R10/B12/G15

### ガラス玉の編み方 （三線男系による編み込みにより想定）



# 3. 令和5年度の垂飾（試作）の進捗状況

## ① 刺繍 部分試作

（令和6年1月26日 第5回染織WG時点）

※技法検討用の試作であるため、金糸や刺繍糸は本製作とは異なる。



【火焰宝珠文】

火焰の外側と内側の太さを確認  
宝珠内部の駒繡いの雰囲気を確認



【龍文】

胴体の駒繡いの雰囲気の確認  
刺繍糸による琉球千鳥繡いの確認



【瑞雲文】

5色の刺繍糸の組み合わせの確認



【刺繍糸（黒、青、赤、黄）】  
布地とのコントラストの確認

## ② 飾玉 部分試作

（令和6年1月26日 第5回染織WG時点）

※小玉の大きさの比較、不規則配列による飾玉の見栄えについて検討するための試作を行った。



左小玉：径約 4.5~5.0mmガラス玉（類似復元事業での大きさをもとにしたストック）  
右小玉：径約 7.0mmのガラス玉（平成の復元での大きさをもとに今回試作）  
両大玉：径約10.0mmのガラス玉（平成の復元での大きさをもとに今回試作）



## 4. 垂飾の製作仕様の検討

### (1) 垂飾の構造仕立ての検討

- ・ 緞子（7枚縹子）部分は、2枚の縹子を背中合わせにし、正面・背面を両表となるようにする（平成復元時を踏襲）。
- ・ 平成復元時の垂飾の構造仕立ては不明である（詳細情報無し）。
- ・ 縹子への重量的負担を軽減するため、2枚の縹子の間に基底材を入れる。
- ・ 縹子に皺がよらないようにきれいな張り具合となるよう、底辺に重りとなるような材を入れる。

### (2) 垂飾の取付方法の検討（平成復元時の状況確認）

- ・ 縹子の上辺の呑み込み部に、耳(小さな布)を一定間隔で付けることで、緞子のたわみを防ぐ効果があると考えられる。
- ・ 額木の背面側に貼り付け、薄板をビス止めして縹子上部の一部を押さえて隠すとともに、上辺の通りを出していた。



平成復元時の垂飾の設置状況  
(平成復元製作会社提供)



平成復元時の垂飾の背面状況  
(沖縄美ら島財団提供)

# 5. 令和6年度の染織WG部会の主な検討内容

- 染織WG部会における次年度の主な検討内容は、下表の通りである。

制作物名称	主な検討内容
緞子・刺繍	<ul style="list-style-type: none"><li>❑ 龍文の刺繍仕様（鱗の表現方法、綴じ系の色）を決定し、本製作に着手する。</li><li>❑ 刺繍の本製作（試作、製作）に着手し、製作工程の要所において監修を入れながら進めることとする。</li><li>❑ 瑞雲文の配色の根拠を決定し、本製作に着手する。</li></ul>
飾玉	<ul style="list-style-type: none"><li>❑ ガラス玉（大玉、小玉）の配色、円弧や二重線の張り具合などの編み込み、繻子への繻い付けなどを試作等により検討し、仕様を決定する。</li></ul>
構造仕立て・正殿への取り付け方法	<ul style="list-style-type: none"><li>❑ 構造仕立て・正殿への取付方法について、試作等により検討し、仕様を決定する。</li></ul>